

(1) はじめに

この5年間、採用まで非常勤講師経験が長かったためにクラス経営・部活動・分掌業務のすべてにおいて経験が浅く、本当に多くの先生方にお世話になった。業務内容から生徒対応まで経験を積まれている先生方にご指導いただきながら、卒業生を送り出せたこと、5年という節目を迎えられたことに感謝している。

今後は、秋田県教員育成指標と「あきたキャリアアップシート」で客観的に振り返りをしながら、各段階の課題をクリアして次のステージに進めるように研鑽を積んでいきたい。

(2) 高等学校教職5年経験者研修Ⅰ期

1) 事前レポート

①自校の生徒の実態

②指定されたテーマについて

ア「言語活動を効果的に位置付けた授業展開についての工夫と実践上の課題」

イ「生徒の思考を深める授業展開についての工夫と実践上の課題」

ウ「問題解決のプロセスを重視した授業展開についての工夫と実践上の課題」

2) 生徒の実態を踏まえた授業改善①

家庭、工業、農業、商業が合同で提出したレポートを持ち寄って協議を行った。提出したレポートを説明し、良かった点・改善点を付箋に書いて交換し合った。そこから、自分の強みと課題を見つけてⅡ期の研修で取り組む内容・科目等を考えた。主任指導主事の先生から「いつもの授業では無く今まで取り組んだことのない授業にチャレンジして欲しい」というお話をいただき、失敗を恐れずに新しい授業構想に挑戦する決意をした。

3) 生徒理解と人間関係づくり

「生徒の行動には目的がある」という言葉が印象的だった。「どうしてそんな事をするのか」という原因追及ではなく「何のためにその行動をとるのだろうか?」と考える視点が大切だと学んだ。また、困っている生徒にどう接してあげたらいいのかを知るためにも外部機関との連携を図ることが大切だと知った。

4) 学校組織の一員として —マネジメントの視点—

学校の教育目標を達成するためには、学校全体を見渡す、マネジメントの視点が必要であるとのお話があった。マネジメントは管理職の仕事と捉えるのではなく、教員も保護者や地域のニーズを読み取り、学校に関与する人たちのニーズに適応させながら教育目標達成のために活

動していく必要があることを学んだ。演習では学校要覧を使い、イラストなども入れて学校プレゼンテーションシートを作成した。自分の教科・分掌以外の取り組みも把握していなければ描けないことを実感し、他分掌や職員間の連携の重要性を学んだ。

(3) 高等学校教職5年経験者研修Ⅱ期

1) 事前提出 学習指導案と授業実践VTR 別紙1参照

Ⅰ期で与えられたテーマが「問題解決のプロセスを重視した授業展開についての工夫と実践上の課題」であった。これまで「個で考え、班で考え、全体で発表をして意見交換をする」という流れで進めてみたが、他の班の発表を活かして思考を深めさせるには至っていないのが課題であった。発表を聞いて終わりではなく、そこから思考を深めさせる授業づくりに挑戦することにした。指導主事の先生に何回も指導案を見ていただき、初めての授業構想を創り上げることができた。

2) 生徒の実態を踏まえた授業改善②

Ⅱ期は教科を越えたグループ編成で、私は数学、英語、物理の先生方と協議を行った。授業提示者が自身の課題や改善策、指導案について説明した後、授業VTRの関連部分を20分視聴しながら気づいた事を付箋にメモし、気づいた事を紹介し合い、類似した意見・視点を類型化して改善策を見いだすという流れで進められた。

生徒や学校の実態、教科の特性によって苦慮している点や工夫している点を互いに知ることができた。他教科の先生方からは、家庭科教員とは違う視点からご助言をいただき参考になった。家庭科指導主事の先生から「中学校では年間指導計画が複数の分野と関連づけた複合教材になっている」とご助言をいただき、高校でも授業時数が少ない家庭基礎に取り入れていきたいと感じた。

3) 教師が使えるカウンセリングの技法

傾聴やブリーフセラピーについて学んだ。ブリーフセラピーは過去を振り返って原因探しをするのではなく、悩んでいる本人がどう変わりたいのか先のことに焦点を当てていく解決志向型で短期療法といわれる心理療法の1つである。本人と問題を分けて考える「外在化」、問題がある状況の中でも上手くできていることに目を向ける「例外探し」、小さな目標を決めて出来そうなことから挑戦していく「スケーリングクエスチョン」などの技法を学んだ。特に、解決思考ブリーフセラピーの「うまくいっているなら続けよ、うまくいかないなら何か違うことをせよ」という言葉は生徒対応に活かしたい。また、生徒も解決型思考が身につくと、社会生活を送るうえで生きやすくなるのではないかと感じた。

(4) 今後に向けて

授業づくりにおいては、自分のスタイルが固定化しつつあり、新しい発想がなかなか生み出せずにいた。今回の授業改善は、各々の課題を同期で協力し合って改善を目指す研修だったため、失敗

を恐れずに互いに励まし合って多くのヒントが得られたと思う。そして、今後も各々の学校で研鑽を積みたいという意欲を新たにすることができた。

今後は、社会や時代の劇的な変化に柔軟に対応しながら教員として経験を積んでいきたい。生徒の実態も社会のニーズもかつてとは変化していることを念頭に置き、授業改善や生徒指導に取り組んでいきたい。

別紙 1

家庭科 科目「家庭基礎」学習指導案

授業者 富谷 朋子

対象生徒 1年B組 14名

日時・場所 7月10日3校時・1B

教科書 東京書籍

「家庭基礎～自立・共生・創造」

1 単元名 第2章 子どもと共に育つ（子どもの事故防止）

【学習指導要領 内容(1)人の一生と家族・家庭及び福祉 イ 子どもの発達と保育】

2 目標

乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について認識させる。

3 生徒と単元

男子8名、女子6名、計14名の学級である。高校卒業時の自立を目指して、家庭科を積極的に学習する姿勢が見られる。入学から3カ月が経過し、出身中学校の異なる友人ともコミュニケーションをとって学習できるようになった。保育に関しては、きょうだいや親戚の子どもの様子を思い浮かべながら学習することはできているが、将来、自分が親として子どもを育てるというイメージを持つことはできていない。

本単元では、「子どもの事故防止」について親や大人の立場に立って考えることができるように、実際に起こった事例を使って考えさせたい。特に、子どもの事故対策としては「子どもから目を離さない」「危険な物は手の届かない場所に置く」などの意見が生徒からあげられるが、より具体的な対策が必要であること、子どもの事故が起こりやすい環境や、子どもの発達段階によって起こりやすい事故があることにも気付かせたい。また、日本は先進国の中でも子どもの不慮の事故による死亡率が高い。長年、子どもの事故防止は親の責任とされ、科学的な原因究明や対策が遅れていること、新製品の開発によって新しい事故が起こることが指摘されている。そこで、消費者の権利と責任と合わせて学習し、親・保育者、地域、行政、企業の社会全体で子どもを保育していくことの重要性に気付かせたい。

4 指導と評価の計画（12時間）

学習内容（時数）	評価規準			
	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
1 子どもの育つ力を知る（4）		遊びの意義や児童文化の子どもへの影響について考え、まとめて発表している。		乳幼児期が人間の発達段階で重要な時期であることを理解している。
2 親として共に育つ（本時4／5）	保育の重要性や社会の果たす役割について考えようとしている。	親の役割や子どもを生み育てることの意義について考え、まとめて発表している。		保育の第一義的な責任や、それを支える社会の支援が必要であることを理解している。
3 子どもとの触れ合いから学ぶ（1）	実践的・体験的な活動を通して、保育に関心をもち、学習に取り組もうとしている。	各年齢の心身の特徴をまとめて発表している。	子どもとの触れ合いを通して、子どもの発達について観察することができる。	
4 これからの保育環境（2）		少子社会における子どもを取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について考え、まとめて発表している。	子どもの権利や福祉について、具体的な法律や制度などの情報を収集することができる。	子どもの権利と福祉について理解している。

（参考：評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 文部科学省 国立教育政策研究所）

5 本時の計画

（1）ねらい

事例から子どもの事故の原因やその防止策について考える活動を通して、家庭、地域、行政、企業等様々な立場から、親や家族など大人が果たす役割について考え、まとめることができる。

(2) 展開 (T:教師の発問 S:予想される生徒の反応)

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	<p>① 子どもの頃に多い事故にはどのようなものがあるか考える。</p> <p>T1: 子どもに多い事故には何があるか? S1: 窒息→T1: 寝ているだけの乳児が窒息するのはなぜ? S2: 誤飲→T2: 食べ物でない物を飲み込んでしまうのはなぜ? T3: 子どもの事故を防ぐにはどうしたらよいか。 S3: 目を離さない、危険な物を手の届く所に置かない。</p>	<p>・中学校での既習内容を思い起こすように促す。</p> <p>・発達段階に応じて起こりやすい事故、死亡に繋がりやすい事故があることに気づかせる。</p> <p>・子どもの事故防止は、子どもの命に係わる重要な課題であること、親・大人として子どもを危険から守る責任があることを伝える。</p>	
展開 40分	<p>② 3つの事例をもとに、子どもの事故の原因や防止策、大人の果たす役割を考える。</p>		
	<p>本時の目標：子どもの事故を防ぐための大人の役割を考え、まとめることができる。</p>		
(30)	<p>【個人で考え、プリントに記入 5分】 【グループで考え、用紙に記入 10分】 【グループごとに発表 10分】</p> <p>T4: 全体を見て、子どもの事故防止のキーワードを挙げてみよう。 S4: 親が注意していない、危険な物を置いている、子ども特有の考え方があ る、周囲の協力があ</p>	<p>・広い視野で検討できるよう、様々な場面を想起できるような助言をする。</p> <p>・机間指導し、悩んでいる生徒には、事例の問題だと思っ箇所に線を引くように助言する。また、保育者の立場を想像して考えるように助言する。</p> <p>・商品としてどのようなものを選ぶのかも大切な視点であることを伝える。</p>	<p>様々な角度から原因や対策を考えようとしている。</p> <p>【A・B 観察、ワークシート】</p>

(10)	<p>③安全性の観点から製品を観察し、事故防止の対策について考える。</p> <p>○ボタン電池2種類を用い、開け方を比べる。</p> <p>○誤飲による人体への影響について考える。</p> <p>④ 「消費者の5つの権利」「国民生活センター」の取組を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の安全性に目を向けさせる発問をする。 ・比較による気づきを引き出せるよう、実物を提示する。 ・心身の発達段階や、誤飲の事故が起きやすい年齢について再確認するよう助言する。 ・消費者の意見を製品開発・改善に活かすことで防ぐことが出来る事故があることに気付かせる。 	
まとめ 5分	<p>⑤ 本時の学習を踏まえ、子どもの事故を防ぐための大人の役割をまとめる。【個人】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にしてまとめるように指示する。 	<p>子どもの事故を防ぐための大人の役割について考え、まとめている。</p> <p>【B ワークシート】</p>

評価の観点 A 関心・意欲・態度 B 思考・判断・表現 C 技能 D 知識・理解